

朝日カルチャーセンター 「野外の自然観察」

## 夏井ヶ浜はまゆう公園

～ハマユウ九州北限地となみかけ遊歩道と響愛の鐘と～

当日は、晴天に恵まれ、猛暑が予想されましたが、キャンセルもなく、受講者23名、講師および事務局担当者3名を合わせた26名での開催となりました。

はじめに、海風の気持ちよい「はまゆう公園展望台」で、目の前に広がる響灘の海をながめながら、本日の行程とハマユウの花等、植物の解説を行いました。

その後、目の前の海岸に広がるハマユウ群生地で、青い海をバックにハマユウの白い花と、その中にぽつぽつと咲くオレンジ色のコオニユリの風景を楽しみます。

皆さん熱心に、ハマユウの花の構造を観察したり、自生地周辺に見られるハマゴウの紫の花、エビヅル、ハマボウフウ、ツルナ、ハマナデシコ、ソナレムグラ等々、たくさんの海浜植物の名前を確認したりと、海岸周辺を散策したあとは、公園の遊歩道に上がって、岬の突端「響愛の鐘」を目指します。

遊歩道沿いのマサキやハマヒサカキ、トベラ等木本の海浜植物を中心に観察しつつ、強い日差しの中、小さな木陰を探して休憩しながら歩きます。

「響愛の鐘」の前で記念撮影のあとは、岬の海岸に下りて、今度は「芦屋層群」と呼ばれる、独特の地層を見学します。



浸食によりできた洞穴のまわりにはオレンジやグレーが斜めに重なり合った、美しい縞模様の地層が見られます。

これは、3000万年程前に日本列島が大陸から離れていった証拠のひとつと言われており、「ストーム堆積物」と呼ばれる層には、海洋生物の化石もたくさん見つかるそうです。

公園近くの「とと市場」での昼食後は、「なみかけ遊歩道」を散策です。

猛暑の中なので「希望者のみ」としましたが受講者の半分の12名が参加してくれました。

夏井ヶ浜から狩尾岬をめぐる海辺の遊歩道「なみかけ遊歩道」では、目の前に打ち寄せる波の音と潮の香り、そして強い日差しと海風で、夏の海を全身で感じることができました。

狩尾岬突端の「千畳敷」から、神功皇后の伝説が残る「洞山」の洞穴を見学して、来た道を戻ります。

「とと市場」で待機組のメンバーと合流し、解散となりましたが、本当に暑い中、体調をくずす方もなく、みなさん笑顔で帰途につきました。



スタッフ：手寫・千田（作成）